

立宗七百七十二年、令和六年の新春を謹んでお慶び申し上げます。

日寛上人の『当流行事抄』に 六卷抄三二四

「久遠元初の仏法豈異人ならんや、即ち是れ蓮祖大聖人なり(乃至)久遠元初の法宝とは、即ち是れ本門の大本尊是なり(乃至)久遠元初の僧宝とは、即ち是れ開山上人なり、仏恩甚深ぶつとんじんじんにして法恩も無量なり。然りと雖も若し之れを伝えずんば則ち末代今時の我等衆生、なんぞ此の大法を信受することを得んや。」と、宗開両祖の御誕生なくして、私どもが成仏と所願成就の功德を頂くことは、到底ありえません。の三宝の恩に報いる為には、末法の時「久遠元初の三宝」と信受し、自行化他を致すことこそ御報恩に適うと思っております。

本年は、「折伏前進の年」であります。

日興上人様は刻々と変化する富士山を歌にされ

「皆人に何と語らん日の中に 幾度替いくたひわる富士のけしきを」と、富士山を甚深なる仏法になぞらえ、いかに人々の心に伝え弘め、折伏の相手に心を砕き、信心に導いて、いきなさいとの御心を拝する事が出来ます。皆様方の益々のご精進をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年には、謗法・罪障消滅・信心倍增・息災延命・六根清浄の為に、ご宝前にお供えしている御神酒を差し上げるのでありますが、昨今の飲酒等の規制が問われております。

御本尊様の頂戴(灌頂)の儀式で、罪障消滅・信心倍增・息災延命・現当二世・大願成就の儀式を執り行います。

初めての方は、意味がわからないと思いますので説明いたします。

御書の、放光授職灌頂下 1114. 08

当家の授職は本門に付きて、其の作法・授得の儀式なり。 中略 我等如き的一切衆生、皆悉く現まに益えきを得。久遠の一念、元初の妙法を受け頂く事は、最極無上の灌頂なり。」

最蓮房御返事 587. 12

『法華経には「我が滅度の後に於て応に斯の経を受持すべし。是の人仏道に於て決定して疑ひ有ること無けん」。中略 あらたのもしやたのもしや。大事の法門をば昼夜に沙汰し、成仏の理をば時々刻々にあぢはう。』

と、ご指南下されています。この御本尊様の灌頂(頂戴)の儀式を致し、罪障消滅・信心倍增・息災延命・現当二世・大願成就の利益を戴き、新年の一步を歩んでいきたいと思しますので前に進んで下さい